

開会の辞

日本語教育センター 講演会

正規学部留学生受け入れの 新時代

—タイ・フィリピンの中等教育を学ぶ—



日本語教育センター長、異文化
コミュニケーション学部教授
丸山 千歌

○丸山 皆様、本日はご多用のところ、このようにお集まりくださいます、どうもありがとうございます。

日本語教育センターは、年に1回、シンポジウムを行っておりますが、今回は講演会という形で、タイ、それからフィリピンの中等教育を学ぶ企画しております。題しまして、「正規学部留学生の受け入れの新時代-タイ・フィリピンの中等教育を学ぶ-」でございます。本学は現在、多様な正規学部留学生の受け入れに向けて、方向性を検討しているところでございます。

2018年度はロシア、中国、ベトナム、インドネシア、各地域からの現地の専門家をお招きして、地域の近年の学習者、それから教育現場の動向などをご紹介いただき、私たちがどういったことができるのか、またどんな方向に向かって努力をしていったらいいのかということ、検討を開始いたしました。今回は、その続きの企画でございます、タイ、そしてフィリピンから中等教育の教員、そして日本語学校、優良の日本語教育専門家をお招きしまして、私たちが学ぶという企画でございます。

本日ご登壇いただきますのは、こちらのお2人です。まずフィリピンからヒエイダベルナデット先生で、デ・ラ・サールユニバーシティ、マニラからお越しいただきました。大学で日本語を教えていらっしゃるのと同時に、現在、マニラ日本人文化センターが展開している、中等教育におけるフィリピン人教師の日本語教師研修の講師をお務めの方でいらっしゃいます。フィリピンの中教育事情に詳しいということで、ご推薦いただきまして、本日お招きすることができました。どうもありがとうございます。

そして、お2人目の先生でございますが、スニーラット・ニャンジャローン スック先生でいらっしゃいます。スニーラット先生は、タマサート大学教養学部 日本学科の准教授でいらっしゃり、タイの日本語日本文化教師会の会長もお務めでいらっしゃいます。タイの中等教育における日本語教育にも精通していらっしゃる方として、今回お越しいただきました。どうぞよろしく願いいたします。

では、今日はこちらの2地域の先生方に、20分お話をいただいて、10分質疑応答、20分お話をいただいて、10分質疑応答、その後、全体討議という形で進めてまいりたいと思います。

それでは、早速講演に参りたいと思います。ジェン先生からで、「フィリピン
の中等教育の政策、日本語教育及び教員養成」というタイトルです。それでは
ジェン先生、よろしく願いいたします。